

保護者



「保護者名=父親名」と思ってしまう方も多いのではないのでしょうか。

子育ては両親が協力し合っているものです。父親と母親、どちらも保護者ですよ。

問合せ先 企画広報課 ☎66♦1145

半世紀前からの贈り物

『今、蘇る「文集」』

贈り物

蒲都市民間大使
内田雅敏・プロフィール
蒲都町生まれ
東京弁護士会所属
著書「乗っ取り弁護士」
「これが犯罪? ビラ配りで逮捕を考える」など多数

前号までのあらすじ

思いもかけず内田氏に届いた小学2年のときの文集。

文集を開くと、同級生たちの懐かしい文章が目飛び込んできました。いろいろなテーマごとに書かれている文集を読み進むうち、当時の同級生の顔が、一人ひとり浮かんでくると同時に、走馬灯のように出来事が思い出されます。

当時の子供たちの気持ちを知る上で興味深い一文がある。

ガソリン
ガソリンはいいにおいです。ぼくは大好きです。
(Y・M男児)

当時はまだ牛や馬に引かせた荷車が通っていた時代で、自動

車は現在に比べ格段に少なかった。自動車は豊かな生活の象徴であり、文明そのものであった。だから、子供がガソリン(排気ガスのことだと思おう)に甘美な匂いを嗅いだとしてもそれは決して不思議なことではない。

「大気汚染」という言葉もまだ一般的でなく、煙は産業発展の象徴であった。
例えば、月が出た出た、月が出たヨイヨイで始まる有名な炭坑節がある。この歌の中に「あんまり煙突が高いので、さ

ぞやお月さん煙たかろう、サのヨイヨイ」とあるが、ここでは煙突は産業発展のシンボルとして、肯定的なものとして歌われていた。また、昭和20年代後半から30年代初めごろまでは、大阪は別名「煙の都」と呼ばれ、小学校の社会科の授業などでその産業発展がたたえられていた。

このように幼友達の記事を読んでいると、そこから派生していろいろなことを思い出す。

(つづく)